



## 心のこもったお便りを

ふれあいだよりの会・2/26

No.5

口和地域の「ふれあいだよりの会」は30年以上にわたり、80歳以上の独居高齢者・高齢者のみの世帯などに、絵手紙を書き続けています。有志数名で始まった活動も、現在では子育て世代の方や駐在所の警察官が加わりました。絵手紙は毎月1回、ひとり暮らし高齢者等巡回相談員が協力し、65人へ届けられています。

この日は、令和2年度の活動に向けて話し合いが行われました。会員は「ここまで続けてきたからには、死ぬまでせにゃあいけん」などと、活動への力強い意気込みを話しました。「受け取った人に喜んでもらえるように」と温かい思いが伝わる活動となっています。



▲令和2年度の活動について話し合う参加者

## 新鮮野菜をお届けします

道の駅たかの宅配サービス・3/3-31

No.7

道の駅たかので、庄原産の新鮮野菜を、市内外に宅配便で届けるサービスが行われました。

このサービスは新型コロナウイルスの感染が拡大する中でも、庄原産の野菜を、多くの人に届けたいとの思いから行われました。

3月23日までに150箱を発送し、この日もスタッフが、出荷されたネギやトマト、チンゲン菜などを、配置や色どりを工夫しながら段ボール箱に詰めています。

道の駅たかの栗栖誠さんは「このような状況でも多くの人に庄原の野菜を届けることができた。利用した人から喜びの声が聞けてうれしい」と話していました。



▲箱詰め作業の様子

## 子育て真っ最中の思い

スマイル子育て川柳・写真展・3/5-11

No.4

市役所東城支所1階ホールで「第13回子育て川柳・写真展」が開催されました。この「子育て川柳・写真展」は、子どもたちが元気いっぱい心豊かに育つよう、地域全体での子育て支援を推進する取り組みの一つとして、スマイル実行委員会の主催で毎年開催されています。

作品は、子育て支援センターや、各保育所、保育園、こども園、放課後児童クラブから寄せられたもので、川柳約140点、写真約180点が展示されました。

訪れた人は「元気がでる写真だった」「心の声が出ている川柳がおもしろかった」と話しました。



▲作品を楽しむ来場者

## 憩いのスペースの活用

ふるほんミュージアム・10/28~

No.6

ウイル西城1階のまちの駅「ひばごん郷」に、「ふるほんミュージアム」が設置されています。

「ふるほんミュージアム」は、児童や高齢者の憩いの場の創出や、ひろしまクールシェア（県の省エネの取り組み）の利用拡大などを目的としています。

本棚には、市民から寄付された小説や週刊誌、漫画、絵本など、さまざまな古本が並べられており、開始から5カ月たった現在では700冊以上となりました。その他、コインランドリーの設置や大型ディスプレイによる観光情報の発信なども行われています。

利用者は「コインランドリーの待ち時間などに利用できて便利。もっともっと本が増えてほしい」と話していました。



▲ゆっくり読書ができるスペース

## 福祉への理解を深める

比和小学校福祉教育

No.1

比和小学校3・4年生11人は、福祉教育として総合学習の時間に、比和地域の福祉について学びました。この福祉教育は、自身が地域に暮らす一員として、自分たちの役割やできることに気付き、実践するきっかけをつくることを目的に実施されています。令和元年度は、庄原市社会福祉協議会や認知症の人を支える家族の会・比和「未来の会」の皆さんなどの協力のもと行われました。

児童は、紙芝居を用いて高齢者や認知症の方への関わり方について解説を受けたり、町内の老人福祉施設で体験学習をしたりしました。

その他、高齢者疑似体験具を装着し、高齢者の体の動きを体験したり、地域のサロンに参加したりして、高齢者への理解を深めました。

児童は、「感謝の気持ちをもってサポートしたい」「人を大切にしたいと思った」と話していました。この学習を通じて、比和地域が目指す「子どもから高齢者までが家族のように支え合える町」にまた一歩近づいたようでした。



▲紙芝居で認知症について学ぶ児童



▲地域サロンであやとりをして交流

## 春を告げる節分草の公開

節分草ボランティアガイド・2/21

No.3

節分草の自生地として日本有数の規模を誇る総領町で、自生地公開が2月15日から行われました。2月21日には、総領小・中学校の児童・生徒がボランティアガイドを務めました。

総領小学校4年生は、観光客に節分草の特徴や生態、総領が自生地となった理由などを紹介しました。また、説明を聞いた人に、節分草の絵が描かれた手作りのしおりやシールをプレゼントしました。

自生地を訪れた人たちは「上手に説明してもらったので、節分草の事がよく分かった。霜がかかった節分草も美しい。また来年も訪れたい」と話し、山裾に咲くかれんな花に見とれていました。



▲節分草ボランティアガイドの様子

## 夢を語る

日本語スピーチコンテスト&交流会・2/9

No.2

口和自治振興センターでしようばら国際交流協会主催の第18回日本語学習者による「日本語スピーチコンテスト&交流会」が開催されました。

当日は市内や近隣市町から集まった5カ国17人が約200人の来場者の前でスピーチを行いました。

金賞と会場賞をダブル受賞した、カンボジア出身のサオ・ウィチェカーさんは「カンボジアを豊かな国へ」と題して、「内戦で廃れた母国を豊かにしたい」と話し、会場は大きな拍手に包まれました。

スピーチ終了後は「けん玉パフォーマンス」や、口和中学校生徒による「よさこいソーラン」などが披露されたほか、出場者と来場者が自慢の料理を持ち寄り、さまざまな国の料理を楽しみました。



▲心のこもったスピーチをするサオ・ウィチェカーさん